

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

てエホバの名を呼ぶ心をおぼはせし之にかへしめん わが故せし者等の女即ち我を拜む者エラオヒ

の河々の彼旁よりもきたりてわれに禮ものをさし給ふるの日に汝われに對てをかきたりし諸の

行為をもて羞を得て足なかるべしこの時に汝なんぢの中より富み人樂む者等を除け汝がはねてわ

るに依頼びてイスラエルの遺れる者ハ患を行はず誠をいえずその口のうちには詭偽の言なし彼ら

草食の獸やすまを懼れなむ者なかるべしエホバの女ハ歡喜の聲を擧ぐイスラエルの樂み呼ばれ

エルサレムの女ハ心のかぎり喜び樂めエホバすでに汝の敵を逐はらひたまへりイスラエ

ルの王エホバ汝の中にいます汝がかさねて災禍にわふすであるこの日にエルサレムに向ひて言

わらん憐るゝなかれエホバ汝の手を去なへ垂るゝなかれと 女々たちの神ハエホバなんぢの中に

候ハ救を施す勇士なり彼なんぢのために喜び樂しみ愛の餘りに驅し汝のために喜び呼ばりたまふ

六 われ節會のごとくて愛ふるものを集めん汝等ハ汝より出で者あり恥辱かれらに蒙るゝこと重負の

ほどし 視よこの時われ汝を虐遇する者盡く處置し足蹙たるものを救ひ逐はなれたる者を集め彼ら

して其羞辱を褻りし一切の國に稱譽を得させ名を得させしこの時われ汝らを携へるの時われを汝ら

を集むべし我なんぢらの目の前に候いて汝らの俘囚をかへし汝らをして地上の萬國に名を得させ稱譽を

得せしべしエホバてを言ふ

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

△第六〇節 第二十一節

てエホバの名を呼ぶ心をおぼはせし之にかへしめん わが故せし者等の女即ち我を拜む者エラオヒ

の河々の彼旁よりもきたりてわれに禮ものをさし給ふるの日に汝われに對てをかきたりし諸の

行為をもて羞を得て足なかるべしこの時に汝なんぢの中より富み人樂む者等を除け汝がはねてわ

るに依頼びてイスラエルの遺れる者ハ患を行はず誠をいえずその口のうちには詭偽の言なし彼ら

草食の獸やすまを懼れなむ者なかるべしエホバの女ハ歡喜の聲を擧ぐイスラエルの樂み呼ばれ

エルサレムの女ハ心のかぎり喜び樂めエホバすでに汝の敵を逐はらひたまへりイスラエ

ルの王エホバ汝の中にいます汝がかさねて災禍にわふすであるこの日にエルサレムに向ひて言

わらん憐るゝなかれエホバ汝の手を去なへ垂るゝなかれと 女々たちの神ハエホバなんぢの中に

候ハ救を施す勇士なり彼なんぢのために喜び樂しみ愛の餘りに驅し汝のために喜び呼ばりたまふ

六 われ節會のごとくて愛ふるものを集めん汝等ハ汝より出で者あり恥辱かれらに蒙るゝこと重負の

ほどし 視よこの時われ汝を虐遇する者盡く處置し足蹙たるものを救ひ逐はなれたる者を集め彼ら

して其羞辱を褻りし一切の國に稱譽を得させ名を得させしこの時われ汝らを携へるの時われを汝ら

を集むべし我なんぢらの目の前に候いて汝らの俘囚をかへし汝らをして地上の萬國に名を得させ稱譽を

得せしべしエホバてを言ふ

方伯セルババにおよびヨサアの子祭司の長ヨシヤに臨めりいばく 萬軍のエホバかくいひたまふ是

民ハエホバの殿を建てし時期未だ來らずといへり エホバの言を預言者ハガイによりて臨めり曰く

此殿かく毀壞を蒙るべし汝等板をもて之を居るべき時ならんや さきバ今萬軍のエホバかく曰たまふ

汝等おのれの行為を省察べし 汝ら多し多く擲入るどころに少しく食へども飽てどを得ず飲ども

満足せざるを得ず衣色ども暖かざるを得ず又工價を得るものこれを破れたる袋小入る 萬軍のエホバ

く曰たまふ汝等おのれの行為を省察べし 山の上り木を携へ來て殿を建よさせられ我これを憐れ又榮光

を受んエホバてを言ふ なんぢら多く得んと望みたりしに反て少なりき汝等これを家に携へ歸り

し時我これを吹さらへり 萬軍のエホバひたまふは何故ぞや 是ハ我が殿毀壞をるに故等かこの

室に走り至るべかり この故になんぢらの上の天ハ雨露を止め地ハ雨の産物を止めたり 且われ地にも

山にも穀物にも新酒にも油にも地の生ずる物にも人にも家畜にも手のもろくの工にもすべて毀壞を召

きかうひらめたり 万軍の子セルババヨサアヨサアの子祭司の長ヨシヤにおよびの殘れるす

べての民どもに其神エホバの聲を預言者ハガイの言に聽えんがへり是ハ其神エホバかれを遣したまひし

に因る民みなエホバの前に敬畏たり 時にエホバの使者ハガイエホバの命により民に告げて曰けるハ我

んぢらと倍に在りてエホバ曰たまふと エホバヨサアの子セルババヨサアの子セルババの心ヨサアの

子祭司の長ヨシヤの心よびの殘れるすべての民の心をふりあてたまひけしバ我等來りて其神萬

軍のニホバの殿にて工作を爲り 此れダリヨマの二年六月二十四日なりき

七月其月の二十一日ニホバの言預言者ハガイによりて臨めり曰くニホバの子ニホバの方
 伯セルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシエがよびの幾れる一切の民に告よ 今んから遭れる者の
 中この殿の從前の榮光を見しものり誰や、今てを如何に見るやかの殿にくらぶるは是ハ汝らの目に
 何もなきが如く見ゆるにわらずや 今ハ曰たまふセルバベルよ自ら強くせよ、ヨザダクの子祭司の長
 ヨシエよ自ら強くせよ、ニホバが言たまふこの地の民よ自ら強くしてはたらけ我かちらとともになり
 萬軍のニホバてを言ふ 汝らハヨシエトよりいでし時わがなんぢらに約せし言およびわが鑑なば今ん
 ちの中に留まり、懼る勿れ 萬軍のニホバかくいひたまふいま一度、汝らくありてわき天と地と海と陸
 どを震動せん 又わき萬國を震動せん、また萬國の屬ふところのもの來らん又われ榮光をもてこの殿に
 充滿せん 萬軍のニホバてを言ふ 銀も我ものなり金もわが物なり、萬軍のニホバいひたまふ、この
 殿の後の榮光より大ならん、萬軍のニホバいひたまふこの處にわかれ平康をあたへん
 と萬軍のニホバいひたまふ、ダリヨマの二年九月二十四日ニホバのことば預言者ハガイによりて臨め
 り、曰く 萬軍のニホバかく曰たまふ法律につきて祭司に問ふて曰ふべし、人衣の靴にて聖肉を携へた
 らんにこの穢しバツ或ハ穢なるひ酒あるひハ油あるひハ他の食物に押らば、聖ものとなる
 や、祭司たち答て曰ける、いかに、ハガイまたいひける、屍体に押りて汚れしもの若てきらの物にさ
 ば、其ものりけるべき祭司等、たへて曰ける、汚れん、こゝに飛てハガイ答て曰ける、ニホバ曰
 たまふ、我前此民もかくの如く、また此國もかくの如く、又其手の一切のわきもかくの如く、彼等らの處

に献るものもけられたるものなり、また今わき汝らに乞この日より以前すかしてニホバの殿にて石の上
 に石の置れざりし時を憶念べし、かの時に二十升もあつべき麥束につきてわかつたを、また酒樽
 につきて五十桶汲んでせしに、た二十を得たるのみ、なんぢの手をもて爲せる一切の事に於て、われ不實
 穂と朽腐穂とを以てなんぢらを撃り、ざれど汝らわれにかへらざりき、ニホバてを言ふ、なんぢらて
 の日より以前を憶念みよ、即ち九月二十四日より、ニホバは殿の基を置し、日まをわき見よ、種子なば
 倉にあるや、葡萄の樹、無花果の樹、石榴の樹、橄欖の樹も、また實を結むざりき、此日よりのちわれ汝ら
 を置まん、○此月の二十四日にニホバのことば再びハガイに臨めり曰く、ニホバの方伯セルバベルに告よ、
 われ天地を震動せん、列國は位を倒さん、また異邦の諸國の權勢を滅さん、又軍および之に據る者を倒さん、
 馬および之に騎る者もおのゝ其伴侶の劍によりてたふさん、萬軍のニホバ曰たまふ、セルバベルの子
 わの僕セルバベルよ、ニホバいふこの日に我なんぢを取り、なんぢを印の如くにしん、われ汝をえらび
 たればかり、萬軍のニホバてを言ふ

ハ基〇五
 二基〇九
 三基〇九
 四基〇九
 五基〇九
 六基〇九
 七基〇九
 八基〇九
 九基〇九
 十基〇九
 十一基〇九
 十二基〇九
 十三基〇九
 十四基〇九
 十五基〇九
 十六基〇九
 十七基〇九
 十八基〇九
 十九基〇九
 二十基〇九
 二十一基〇九
 二十二基〇九
 二十三基〇九
 二十四基〇九
 二十五基〇九
 二十六基〇九
 二十七基〇九
 二十八基〇九
 二十九基〇九
 三十基〇九
 三十一基〇九
 三十二基〇九
 三十三基〇九
 三十四基〇九
 三十五基〇九
 三十六基〇九
 三十七基〇九
 三十八基〇九
 三十九基〇九
 四十基〇九
 四十一基〇九
 四十二基〇九
 四十三基〇九
 四十四基〇九
 四十五基〇九
 四十六基〇九
 四十七基〇九
 四十八基〇九
 四十九基〇九
 五十基〇九
 五十一基〇九
 五十二基〇九
 五十三基〇九
 五十四基〇九
 五十五基〇九
 五十六基〇九
 五十七基〇九
 五十八基〇九
 五十九基〇九
 六十基〇九
 六十一基〇九
 六十二基〇九
 六十三基〇九
 六十四基〇九
 六十五基〇九
 六十六基〇九
 六十七基〇九
 六十八基〇九
 六十九基〇九
 七十基〇九
 七十一基〇九
 七十二基〇九
 七十三基〇九
 七十四基〇九
 七十五基〇九
 七十六基〇九
 七十七基〇九
 七十八基〇九
 七十九基〇九
 八十基〇九
 八十一基〇九
 八十二基〇九
 八十三基〇九
 八十四基〇九
 八十五基〇九
 八十六基〇九
 八十七基〇九
 八十八基〇九
 八十九基〇九
 九十基〇九
 九十一基〇九
 九十二基〇九
 九十三基〇九
 九十四基〇九
 九十五基〇九
 九十六基〇九
 九十七基〇九
 九十八基〇九
 九十九基〇九
 百基〇九

哈基書終

たればかり、萬軍のニホバてを言ふ

四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 一百 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節

國々の民を大く怒る其れ我すてし怒りしに彼ら力を出して之に害を加へたまふなり エホバかく言ふ
 是故に我憐憫をもてエルサレムに歸る萬軍のエホバのたまふ我室ろの中お建られ量繩エルサレムを張
 れん 汝また呼そりて言へ萬軍のエホバかく言ふ我邑々に再び喜物あふれん エホバふたたびシオン
 を慰め再びエルサレムを簡びたまふべし ○かくて我目を擧て觀しお四の角ありければ 我に語ふ天
 の使は是等ハ何なるやと問しお彼われに答へけるハ是等ハエライスラエルかよびエルサレムを敷したる
 角なりと 時にエホバ四箇の鍛冶を我に見したまへり 我是等ハ何を爲んぞと承れるやと問しに却て
 へたまへり是等の角ハエホバを敷してハカハの頭を擧めざりし者なるが今この四箇の者來りて之を敷し
 かのエホバの地おむかひて角を擧て之を敷せし諸國の角を擧たんとす
 一 茲に我目を擧て觀しに一箇の人量繩を手に執居ければ 汝ハ何處へ往くやと問しにエルサレ
 ムを量りての廣と長の幾何あるを觀んとすと我に答ふ 時お我お語ふ天の使出行たりしとが又一箇の天
 の使出きたりて之お會ひ之に言けるハ走ゆきてこの少き人に告て言へルサレムハろの中に八と畜と
 饑あるによりて野原の邊とくお廣く亘るべし エホバ言たまふ我ろの四周にて火の垣とありろの中おて
 榮光とあらん エホバハいたまふ來れ北の地より逃きたれ 我なんぢらを四方の天風の邊とくお行わた
 らしむられをなり エホバて之を言ふ 茶と、パロツの女子ととも居るシオンよ 遁れ來よ 萬軍のエホ
 バかく言たまふ エホバ汝等を擧へゆきと國々へ榮光のために我儂を遣へしたまふ 汝らを打つ者ハ彼の
 目の珠を打おれんなり 即ち我手をかれらの上に擽ん彼らハ己に事へし者の俘虜となるべし 汝らハ萬軍
 のエホバの我を遣へしたまへるなるを知ん エホバ言たまふシオンハ女子よ 喜び樂め 我きたりて汝の

四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 二十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 三十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 四十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 五十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 六十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 七十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 八十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十一 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十二 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十三 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十四 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十五 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十六 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十七 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十八 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 九十九 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節
 一百 撒加利亞書 第二章 自十六至二十三節

中に住む者あり 日のハ萬多の民エホバに附て我民とせん 我かんなちの中お住し汝ハ萬軍のエホバ
 の我を遣したまへるなるを知ん エホバ聖地の中にエホバを取て己の分とせし再びエルサレムを簡びた
 るべし エホバ興てろの聖住所よりいでたまへ凡ハ血肉ある者エホバの前に肅然たれ
 一 彼祭司の長ヨシヤがエホバの前に立ちサタンのろの右に立てこれに敵しをるを我に見
 ず エホバサタンに言たまひけるハサタンよ エホバ汝をせむべし 即ちエルサレムを簡びしエホバ汝を
 いまじむ是ハ火の中より取りいだしたる燐炭ならすと 三 ヨシヤ汚なき衣服を衣て使の前に立をりし
 エホバ己の前に立る者等に告て汚なき衣服を之に敷せよと宣ひたまふ ヨシヤに向ひて 觀よ我んなちの
 罪を汝の身より取りけり 汝に美服を衣すべしと宣へり 我また潔き冠冕をその首に冠らせよと語り是
 において 潔き冠冕をろの首に冠らせ衣服をこれに衣す エホバの使り立をる エホバの使證してヨシヤ
 に言ふ 萬軍のエホバかく言たまふ汝も我道を歩みわの職守を守らば我家を司り我庭を守ること
 を得ん 我また此に立る者等の中に往來する路を汝に與ふべし 祭司の長ヨシヤよ 請ふ汝と汝の前に坐す
 る汝の同僚とともに聽べし 彼らハ即ち前表となるべき人なり 我かんなち我僕たる杖を來らすべし
 エホバの前に我が立てるところの石を觀よ 此一箇の石の上に七箇の目あり 我自らろの彫刻を刻す萬軍のエホ
 バてまを言ふ 汝の罪を一日の内に除くべし 萬軍のエホバ言たまふ 其日に汝等ハの一面
 に相招きて葡萄の樹の下無花果の樹の下にあらん
 一 我に語へる天の使また來りて我を呼醒せり 我ハ睡れる人の呼醒さまじとて 彼我に
 むかひて 汝何を見るやと 言けき 我へり 我觀に物金の燈臺一箇ありてろの頂に油を容る器あり きた燈

三 出廿七章七節〇五
 四 出卅七章十二節〇五
 一 何二〇
 二 耶十五〇五本一〇
 三 耶三十一章十二
 四 耶六八〇五二
 五 耶六八〇五二
 六 耶六八〇五二
 七 耶六八〇五二
 八 耶六八〇五二
 九 耶六八〇五二
 十 耶六八〇五二
 十一 耶六八〇五二
 十二 耶六八〇五二
 十三 耶六八〇五二
 十四 耶六八〇五二
 十五 耶六八〇五二
 十六 耶六八〇五二
 十七 耶六八〇五二
 十八 耶六八〇五二
 十九 耶六八〇五二
 二十 耶六八〇五二
 二十一 耶六八〇五二
 二十二 耶六八〇五二
 二十三 耶六八〇五二
 二十四 耶六八〇五二
 二十五 耶六八〇五二
 二十六 耶六八〇五二
 二十七 耶六八〇五二
 二十八 耶六八〇五二
 二十九 耶六八〇五二
 三十 耶六八〇五二
 三十一 耶六八〇五二
 三十二 耶六八〇五二
 三十三 耶六八〇五二
 三十四 耶六八〇五二
 三十五 耶六八〇五二
 三十六 耶六八〇五二
 三十七 耶六八〇五二
 三十八 耶六八〇五二
 三十九 耶六八〇五二
 四十 耶六八〇五二
 四十一 耶六八〇五二
 四十二 耶六八〇五二
 四十三 耶六八〇五二
 四十四 耶六八〇五二
 四十五 耶六八〇五二
 四十六 耶六八〇五二
 四十七 耶六八〇五二
 四十八 耶六八〇五二
 四十九 耶六八〇五二
 五十 耶六八〇五二

臺の上七箇の燈臺ありのの燈臺の頂ありて之に各七本づくの管あり 三
 又上七箇の燈臺の側に橄欖
 の樹二本ありて一ハ油を容る器の右にあり一ハの左にあり 我答へて我を語ふ天の使に問言けるハ我
 主よ是等ハ何やと 我と語いん天の使我に答へて汝是等の何なるを知らるかと言ふにより我主よ知す
 どわき言ハリ 彼また答へて我に言けるハセルバベルにエホバの告たふ言ハるは是のごとく萬軍のエホバの
 たまふ是ハ權勢に由ず能力に由ず我靈に由なり セルバベルの前にわたる大山よ汝ハ何者や汝ハ平地
 とならん彼ハ愚悪お多之に愚悪お多と呼ぶる聲をたてて頭石を曳いたらん 四 エホバの言わきを臨めり云
 くセルバベルの手この室の石礎を置たり彼の手にこれを成終ん汝たち萬軍のエホバ我を汝等に遣はした
 らん誰か小き事の日を窺ひ見る者や 夫の七の者ハ遍ねく全地に往來するエホバの目なり準繩の
 セルバベルの手かあるを見えて喜ばん 我また彼を問て燈臺の右左にあり此二本の橄欖の樹ハ何なるや
 と言ひ 重ねてまた彼を問て此二本の金の管によりて金の油をの申より樹ぎ出す二木の橄欖ハ何や
 と言ひに 彼れに答へて汝是等の何なるを知らるかと言ふれば我主よ知すと言けるに 彼ららく是等
 を見る其長ハ二十キユヒト、その寛ハ十キユヒト 彼またわれに言けるハ是ハ全地の表面を往めぐる兜
 鍔の言かり凡て纏む者ハ奉物のこの面に照して除かき凡て誓ふ者ハ奉物の彼の面に照して除かるべし
 萬軍のエホバのたまふ我れこれを出せり是ハ竊盜者の家に入りまた我名を指て偽り誓ふ者ハ家ハ入ての
 家の中に宿りうの木と石とを並せて盡く之を燬べしと 〇 我に請へる天の御進み來りて我に言けるハ請

三 出卅七章十二節〇五
 四 出卅七章十二節〇五
 五 出卅七章十二節〇五
 六 出卅七章十二節〇五
 七 出卅七章十二節〇五
 八 出卅七章十二節〇五
 九 出卅七章十二節〇五
 十 出卅七章十二節〇五
 十一 出卅七章十二節〇五
 十二 出卅七章十二節〇五
 十三 出卅七章十二節〇五
 十四 出卅七章十二節〇五
 十五 出卅七章十二節〇五
 十六 出卅七章十二節〇五
 十七 出卅七章十二節〇五
 十八 出卅七章十二節〇五
 十九 出卅七章十二節〇五
 二十 出卅七章十二節〇五
 二十一 出卅七章十二節〇五
 二十二 出卅七章十二節〇五
 二十三 出卅七章十二節〇五
 二十四 出卅七章十二節〇五
 二十五 出卅七章十二節〇五
 二十六 出卅七章十二節〇五
 二十七 出卅七章十二節〇五
 二十八 出卅七章十二節〇五
 二十九 出卅七章十二節〇五
 三十 出卅七章十二節〇五
 三十一 出卅七章十二節〇五
 三十二 出卅七章十二節〇五
 三十三 出卅七章十二節〇五
 三十四 出卅七章十二節〇五
 三十五 出卅七章十二節〇五
 三十六 出卅七章十二節〇五
 三十七 出卅七章十二節〇五
 三十八 出卅七章十二節〇五
 三十九 出卅七章十二節〇五
 四十 出卅七章十二節〇五
 四十一 出卅七章十二節〇五
 四十二 出卅七章十二節〇五
 四十三 出卅七章十二節〇五
 四十四 出卅七章十二節〇五
 四十五 出卅七章十二節〇五
 四十六 出卅七章十二節〇五
 四十七 出卅七章十二節〇五
 四十八 出卅七章十二節〇五
 四十九 出卅七章十二節〇五
 五十 出卅七章十二節〇五

臺の上に立ん 一
 我また目を舉て觀じち四輛の車二の山の間にまたまらるの山ハ銅の山なり 第一の車
 に入り赤馬を着け第二の車に入り黒馬を着け 第三の車に入り白馬を着け第四の車に入り白馬を着く
 我すかち我に語いん天の使に問て我主よ是等ハ何なるを言けるに 天の使てたへて我ハ言ふ是ハ四
 の天風にして全地の主の詔より罷り出たる者なり 黒馬ハ北の地をさして進み行き白馬の後に從がふ
 又白馬馬ハ南の地をさして進みゆき 強馬ハ進み出て地を徧ねく行めくらんとす彼故ら往き地を徧ねく
 めくをと言たまひけり則ち地を行めくをり 彼わきを呼て我を告て言ふこの北の地に往る者等ハ北の
 地ちて我靈を安んず 〇 エホバの言わきをに臨めり曰く 汝かの囚虜人の中の者ハルガイ、トビヤ等よび
 エホバより取てをせよ即ちの日に汝彼らがバビロンより歸りて宿りたるセバニヤの子ヨシヤの家に
 到り 金銀を取て冠冕を造りヨサダクの子ある祭司の長ヨシヤの首にこきを冠せ 我ハ語りて言へ
 し萬軍のエホバ斯言たまふ耶と人ありうの名を傳といふ 彼おのれれ處より生いでエホバの宮を建ん

